

# 但馬管内の景気動向調査

2022年10～12月期実績・2023年1～3月期見通し

## 調査の概要

1. 回答数: 524 (前回: 405)
  2. 調査時点 2022年12月上旬
  3. 当金庫 営業店の調査員による、共通の調査表に基づく聴取り調査
  4. 分析方法: ディフュージョン・インデックス(D.I.)  
景気の各項目事項について、「増加」(良い)－「減少」(悪い)の構成比の差＝  
判断 D.I.に基づく分析
- ※全国とは、信用金庫の中央機関である信金中央金庫が全国各地の信用金庫から調査した調査の結果を示している。



但馬信用金庫

# 1. 概況（回答数 5 2 4 前回 4 0 5）

今回(2022年10～12期)の業況D.I.は△12.0となり、全国△10.8を下回ったが、前四半期比では6.0ポイント改善し、コロナ前の水準近くまで回復した。業種別では、製造業、小売業、サービス業の3業種で改善した。また収益面では、売上額D.I.は9.7と前四半期比でプラス11.2ポイント上昇、収益D.I.は△0.2と前四半期比で6.7ポイント上昇した。人手過不足D.I.は△20.3と人手不足感が一段と強まった。次回(2023年1月～3月期)の業況D.I.は△16.0と、低下が予想されている。

業種名 \ 時期	2022年 7月～9月	2022年 10月～12月	2023年 1月～3月(見通し)
総合			
製造業			
建設業			
卸売業			
小売業			
不動産業			
サービス業			

(この天気図は、過去1年の景気指標を総合的に判断して作成したものです。)

好調 ← → 低調

全体	2022年10～12月期実績	前四半期比	2022年1～3月期予想
業況D. I.	△ 12.0	6.0	△ 16.0
前年同期比売上額D. I.	10.5	△ 3.6	-
前年同期比収益D. I.	△ 1.7	△ 5.9	-
売上額D. I.	9.7	11.2	△ 2.3
収益D. I.	△ 0.2	6.7	△ 8.4
資金繰りD. I.	△ 12.8	2.4	△ 13.5
借入金の難易度D. I.	△ 7.8	1.4	-
前期比残業時間D. I.	2.9	3.1	△ 2.9
人手過不足D. I.	△ 20.3	△ 3.7	△ 18.4



## 2. 製造業（回答数89 前回75）

今回(2022年10～12期)の業況D.I.は△10.1となり  
四半期比3.4ポイントの改善となった。

原材料価格D.I.が69.7であり、依然として原材料価格が高止まっている。また、人手過不足D.I.は△30.3と前四半期比で20.2ポイントと大幅に悪化し、1年間連続で下がり続け、より一層人手不足感は強まっている。次回(2023年1～3期)の業況D.I.は△11.2と、今回と同水準で予想されている。

製造業	2022年10～12期実績	前四半期比	2023年1～3期予想
業況D.I.	△ 10.1	3.4	△ 11.2
前年同期比売上額D.I.	19.1	5.4	-
前年同期比収益D.I.	4.5	7.2	-
売上額D.I.	29.2	30.6	5.6
受注残D.I.	17.0	18.4	2.2
収益D.I.	9.0	17.2	△ 5.6
販売価格D.I.	36.0	9.9	19.1
原材料価格D.I.	69.7	△ 1.6	44.9
原材料在庫D.I.	5.6	9.7	2.2
資金繰りD.I.	△ 3.4	4.8	△ 2.2
借入金の難易度D.I.	△ 4.5	5.0	-
前期比残業時間D.I.	15.7	13.0	2.2
人手過不足D.I.	△ 30.3	△ 10.1	△ 20.2
現在の設備D.I.	△ 14.8	△ 5.2	-
設備投資D.I.	19.1	1.5	-
来期設備投資D.I.	19.1	△ 1.2	-

## 3. 建設業（回答数106 前回98）

今回(2022年10～12期)の業況D.I.は△17.9。前四半期比で13.0ポイントの低下と、全業種の中で一番大きく落ち込んだ。

前四半期比では収益面の4項目すべて低下となった。

人手過不足D.I.は△18.4と前四半期比で6.2ポイント改善となった。

次回(2023年1～3期)の業況D.I.は、△31.1と大幅な低下の見通しとなっている。

建設業	2022年10～12期実績	前四半期比	2023年1～3期予想
業況D.I.	△ 17.9	△ 13.0	△ 31.1
前年同期比売上額D.I.	△ 4.7	△ 6.0	-
前年同期比収益D.I.	△ 19.8	△ 11.1	-
売上額D.I.	△ 9.4	△ 4.6	△ 13.3
受注残D.I.	△ 6.6	△ 10.3	△ 15.1
施工高D.I.	△ 6.6	△ 5.4	△ 13.2
収益D.I.	△ 17.0	△ 9.7	△ 17.9
請負価格D.I.	7.6	1.5	3.8
材料価格D.I.	67.6	△ 1.5	38.7
在庫D.I.	△ 9.4	0.6	△ 4.7
資金繰りD.I.	△ 12.3	△ 4.9	△ 15.1
借入金の難易度D.I.	△ 8.7	△ 3.7	-
前期比残業時間D.I.	△ 1.9	△ 3.1	△ 4.7
人手過不足D.I.	△ 18.4	6.2	△ 16.3
現在の設備D.I.	△ 9.6	△ 2.3	-
設備投資D.I.	20.8	2.5	-
来期設備投資D.I.	17.9	△ 0.4	-

#### 4. 卸売業（回答数 57 前回 56）

今回（2022年10～12期）の業況D.I.が△22.8となり、前四半期比と同水準の結果となった。

売上額D.I.は前四半期比で7.9ポイント改善、収益D.I.は7.0と前四半期比11.1ポイント改善、販売価格D.I.は40.4と3.6ポイント改善された。いずれの項目についても2期連続での改善であり、価格転嫁も予想される結果となった。

仕入価格D.I.は63.2ポイントと大きな変化はなく高止まりは続いている。

次回（2023年1～3期）の業況D.I.は△27.3とやや低下の予想。

卸売業	2022年10～12月期実績	前四半期比	2023年1～3月期予想
業況D.I.	△ 22.8	△ 0.4	△ 27.3
前年同期比売上額D.I.	7.0	△ 11.3	-
前年同期比収益D.I.	△ 5.3	△ 9.3	-
前年同期比販売価格D.I.	31.6	△ 5.2	-
売上額D.I.	14.0	7.9	△ 15.8
収益D.I.	7.0	11.1	△ 22.8
販売価格D.I.	40.4	3.6	19.3
仕入価格D.I.	63.2	△ 0.1	31.6
在庫D.I.	0.0	△ 2.0	△ 1.8
資金繰りD.I.	△ 15.8	2.6	△ 12.3
借入金の難易度D.I.	△ 10.9	1.6	-
前期比残業時間D.I.	3.5	1.5	△ 1.8
人手過不足D.I.	△ 12.7	△ 4.6	△ 10.9
現在の設備D.I.	△ 10.5	11.9	-
設備投資D.I.	10.5	0.3	-
来期設備投資D.I.	14.0	1.8	-

#### 5. 小売業（回答数 86 前回 77）

今回（2022年10～12期）の業況D.I.は△18.8と前四半期比18.7ポイントの改善。全業種の中で一番大きく改善した。

仕入価格D.I.は58.1と依然高い水準にあるが、販売価格D.I.は前四半期比2.4ポイント上昇しており、徐々にではあるが販売価格へ転嫁も予想される結果となった。

次回（2023年1～3期）の業況D.I.は△30.1であり、落ち込みが予想される結果となった。

小売業	2022年10～12月期実績	前四半期比	2023年1～3月期予想
業況D.I.	△ 18.8	18.7	△ 30.1
前年同期比売上額D.I.	4.7	12.5	-
前年同期比収益D.I.	△ 9.3	3.2	-
前年同期比販売価格D.I.	43.0	△ 0.7	-
売上額D.I.	0.0	12.5	△ 10.5
収益D.I.	△ 17.4	△ 3.4	△ 19.8
販売価格D.I.	38.4	2.4	25.6
仕入価格D.I.	58.1	△ 2.8	44.2
在庫D.I.	2.3	△ 8.6	1.2
資金繰りD.I.	△ 24.4	1.0	△ 25.6
借入金の難易度D.I.	△ 11.6	4.0	-
前期比残業時間D.I.	△ 1.2	5.2	△ 3.5
人手過不足D.I.	△ 16.3	1.5	△ 20.0
現在の設備D.I.	△ 11.6	2.7	-
設備投資D.I.	17.4	△ 4.4	-
来期設備投資D.I.	15.1	△ 6.8	-

## 6. 不動産業（回答数 19 前回 14）

今回（2022年10～12期）の業況D.I.は△10.5となっており、建設業に続き大幅に低下した業種となった。

収益D.I.は△5.3と前四半期で17.8ポイント低下したが、借入金の難易度D.I.は5.6と、前四半期比5.6ポイント改善し、資金調達面では改善が見込まれる状況であることが窺える。

次回（2023年1～3期）の業況D.I.は0.0となっており改善が予想される結果となった。

不動産業	2022年10～12月期実績	前四半期比	2023年1～3月期予想
業況D.I.	△ 10.5	△ 10.5	0.0
前年同期比売上額D.I.	△ 5.3	△ 17.8	-
前年同期比収益D.I.	△ 5.3	△ 17.8	-
売上額D.I.	5.3	△ 7.2	5.3
収益D.I.	△ 5.3	△ 17.8	0.0
販売価格D.I.	0.0	0.0	△ 5.3
仕入価格D.I.	0.0	△ 12.5	0.0
在庫D.I.	△ 5.3	△ 5.3	△ 10.5
資金繰りD.I.	△ 5.3	△ 5.3	△ 10.5
借入金の難易度D.I.	5.6	5.6	-
前期比残業時間D.I.	0.0	△ 12.5	5.3
人手過不足D.I.	0.0	0.0	0.0

## 7. サービス業（回答数 167 前回 153）

今回（2022年10～12期）の業況D.I.は△2.4と前四半期比と同水準の結果となった。

材料価格D.I.が52.7と前四半期比で6.2ポイントと低下し売上額D.I.が13.2ポイント、収益価格D.I.が17.2ポイント上昇した。

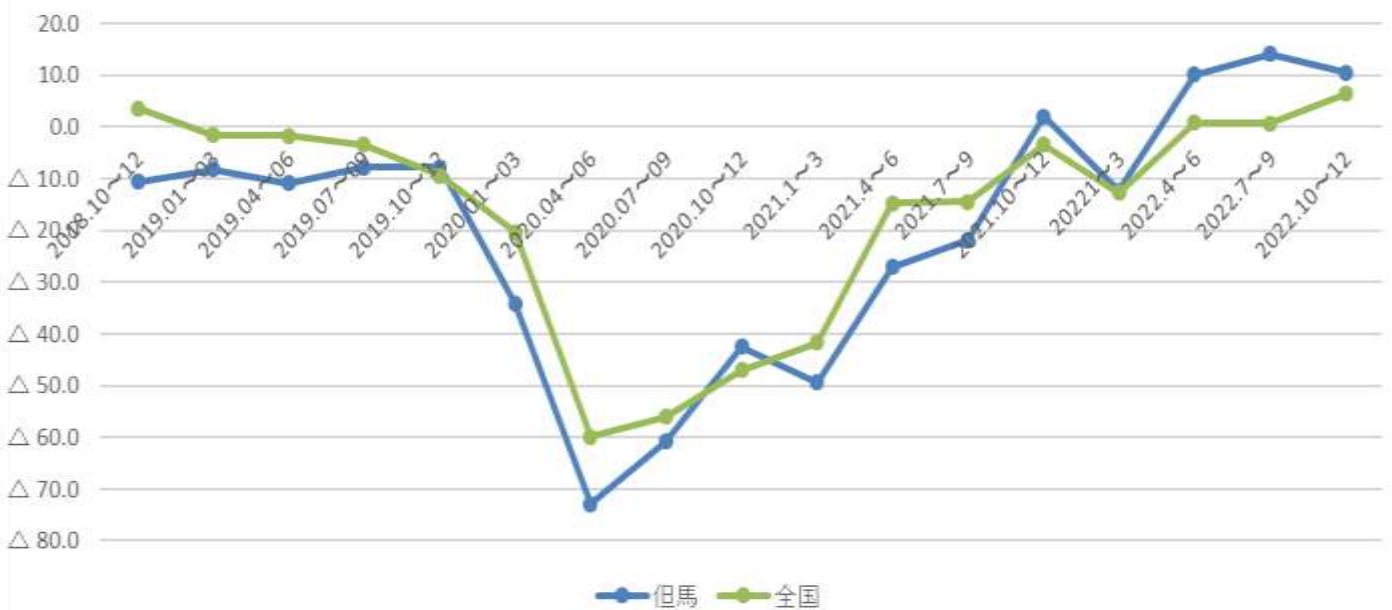
次回（2023年1～3期）の業況D.I.は0.0と今回と同水準の業況が予想されている。

サービス業	2022年10～12月期実績	前四半期比	2023年1～3月期予想
業況D.I.	△ 2.4	16.2	0.0
前年同期比売上額D.I.	21.8	△ 10.0	-
前年同期比収益D.I.	12.1	△ 11.9	-
売上額D.I.	15.6	13.2	8.4
収益D.I.	12.6	17.2	6.0
料金価格D.I.	29.3	6.9	18.6
材料価格D.I.	52.7	△ 6.2	35.9
資金繰りD.I.	△ 12.6	6.2	△ 13.2
借入金の難易度D.I.	△ 7.4	0.4	-
前期比残業時間D.I.	1.2	2.7	△ 5.4
人手過不足D.I.	△ 23.0	△ 9.9	△ 22.6
現在の設備D.I.	△ 17.4	△ 1.0	-
設備投資D.I.	23.4	7.8	-
来期設備投資D.I.	18.6	△ 5.5	-

資金繰りDI



前年同期売上DI

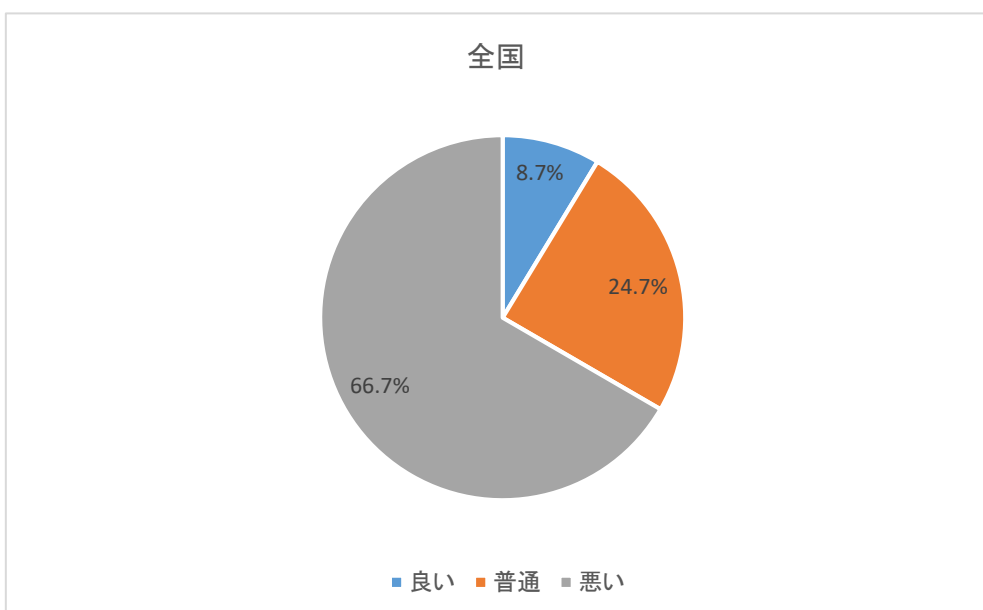
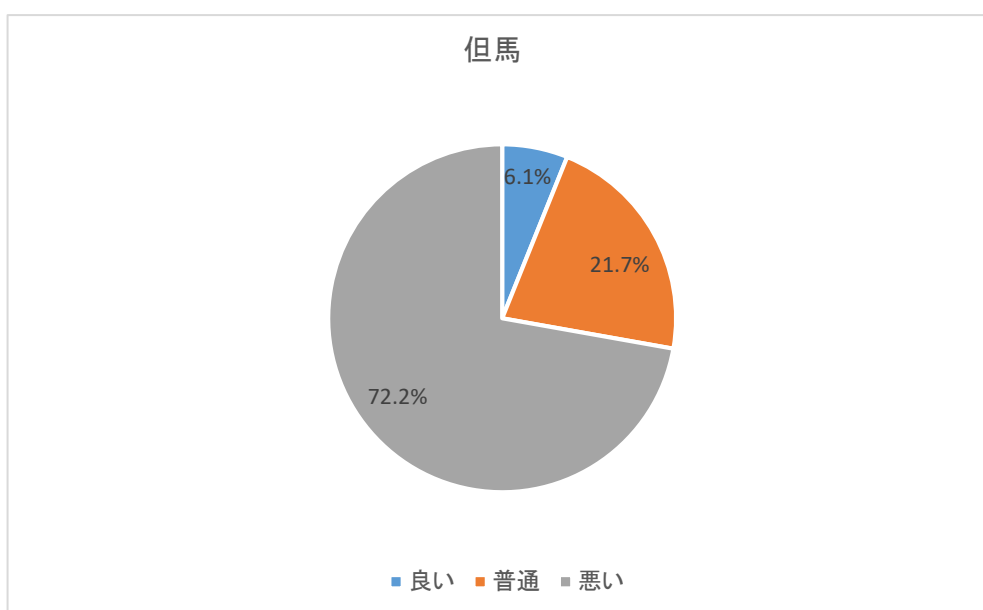




## 《特別調査》 2023年の経営見通しについて

### 問 1. 2023年の日本の景気見通しについて

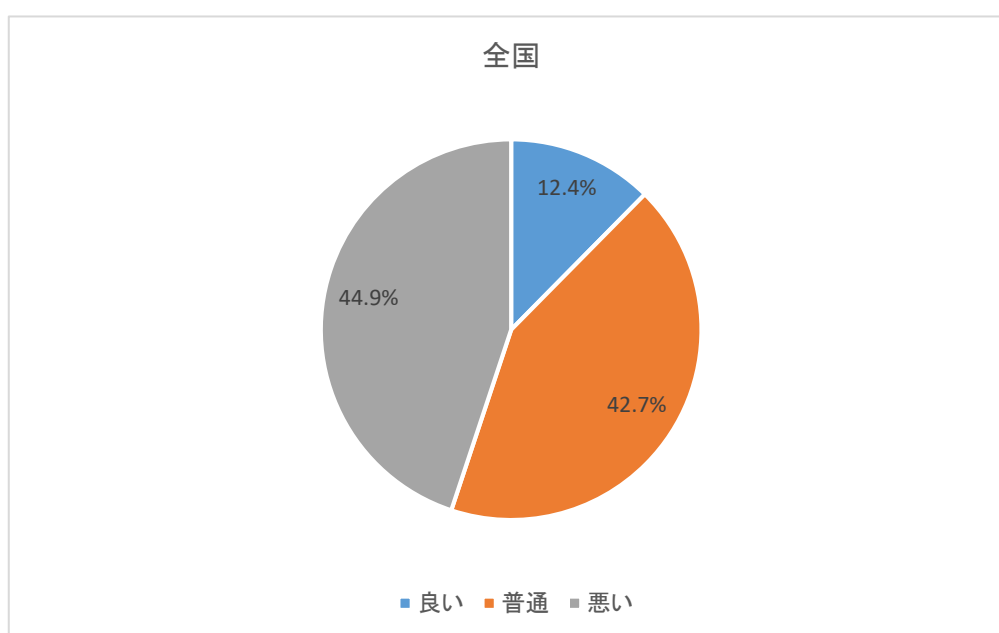
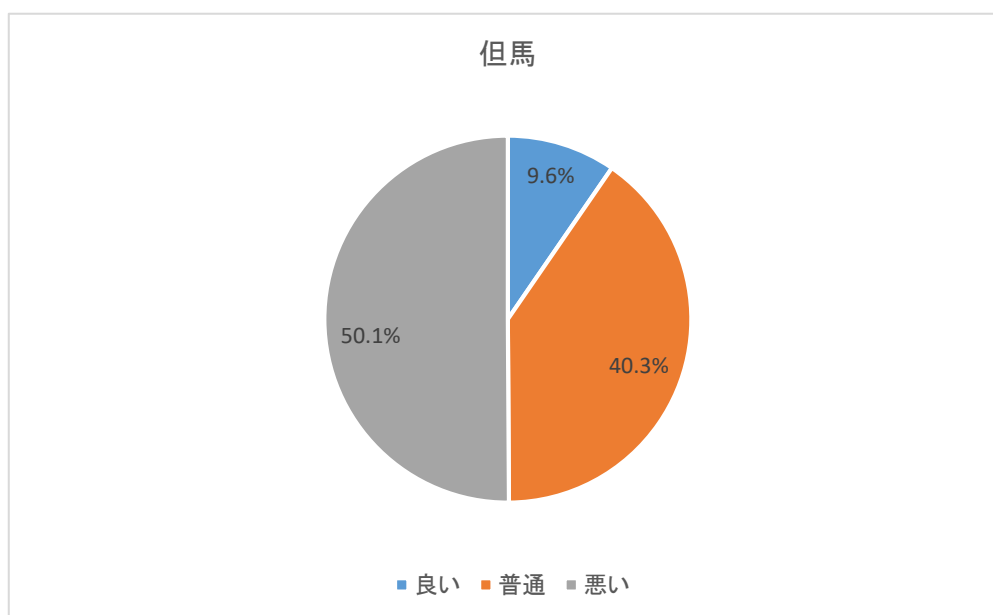
2023年の日本の景気の見通しについては「良い」(非常に良い・良い・やや良いの合計)と回答する割合が6.1%、悪い(やや悪い、悪い、非常に悪いの合計)が72.2%となった。但馬では1年前の調査と比べ「良い」が2.5ポイント低下、「悪い」が5.2ポイント増加した。また全国でも「良い」が5.8ポイント低下、「悪い」が9.2ポイント増加し、但馬・全国ともに昨年より弱気の見通しとなった。





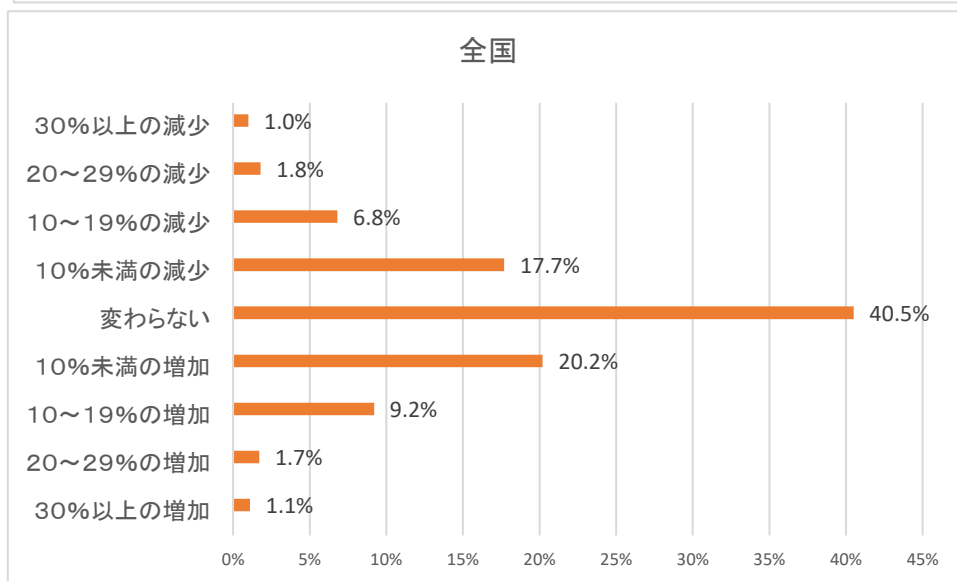
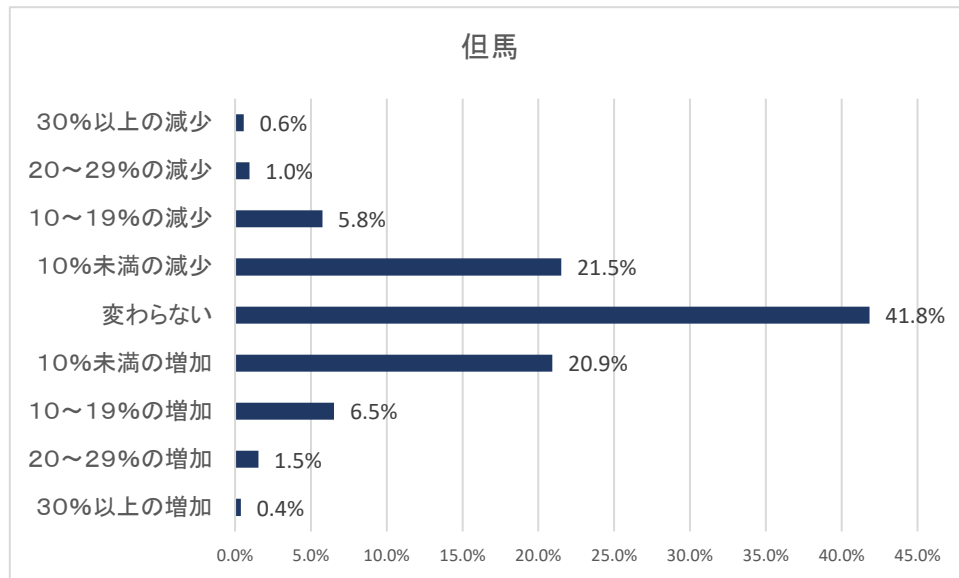
## 問2. 2023年の自社の業況(景気)見通しについて

2023年の自社の業況見通しについては「良い」(非常に良い・良い・やや良いの合計)と回答する割合が9.6%、「悪い」(やや悪い、悪い、非常に悪いの合計)が50.1%となった。日本の景気見通しと同様に、但馬は全国と比較すると「良い」の割合は低い結果であった。しかしながら但馬・全国ともに『日本の景気見通し』より『自社の業況見通し』のほうが「良い」の割合が高く、「悪い」の割合が低い結果となった。



### 問. 3 2023年における自社の売上額の伸び率について

2023年の自社の売上額見通し(増加)を見ると、但馬では29.4%であったのに対し全国の32.3%と比較し、低い結果となった。しかしながら昨年データと比較すると全国では「増加」と回答した企業が減少しているのに対し、但馬では昨年より増加見込みが上昇した結果となった。



今回

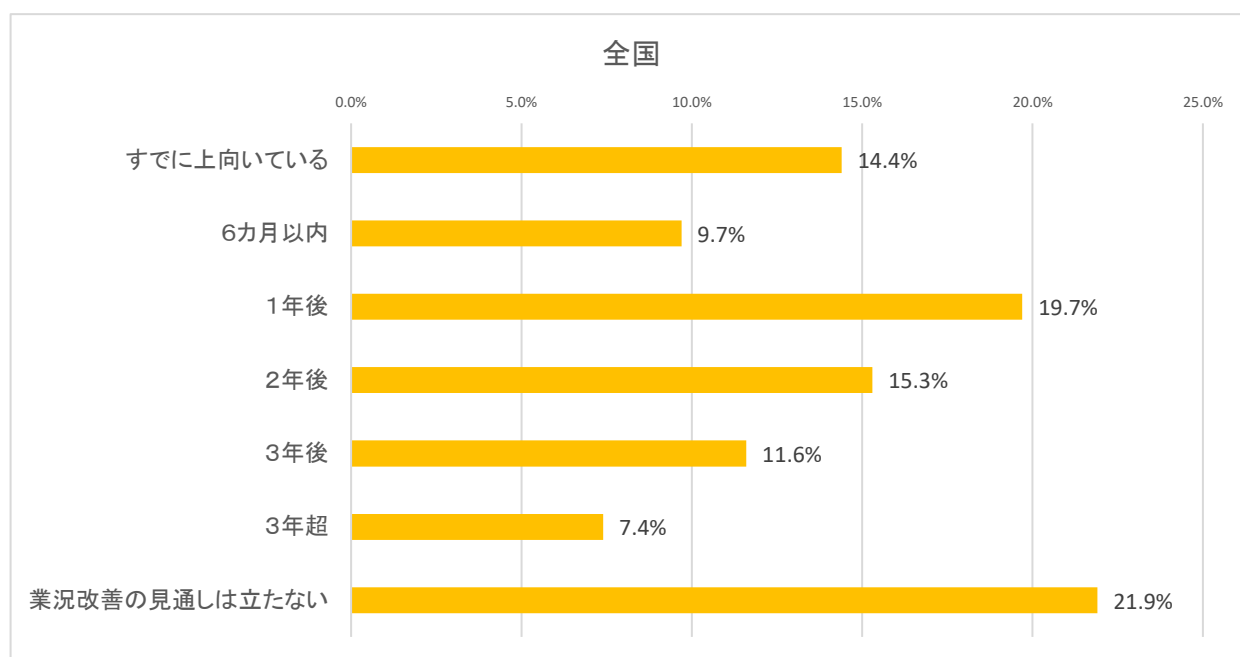
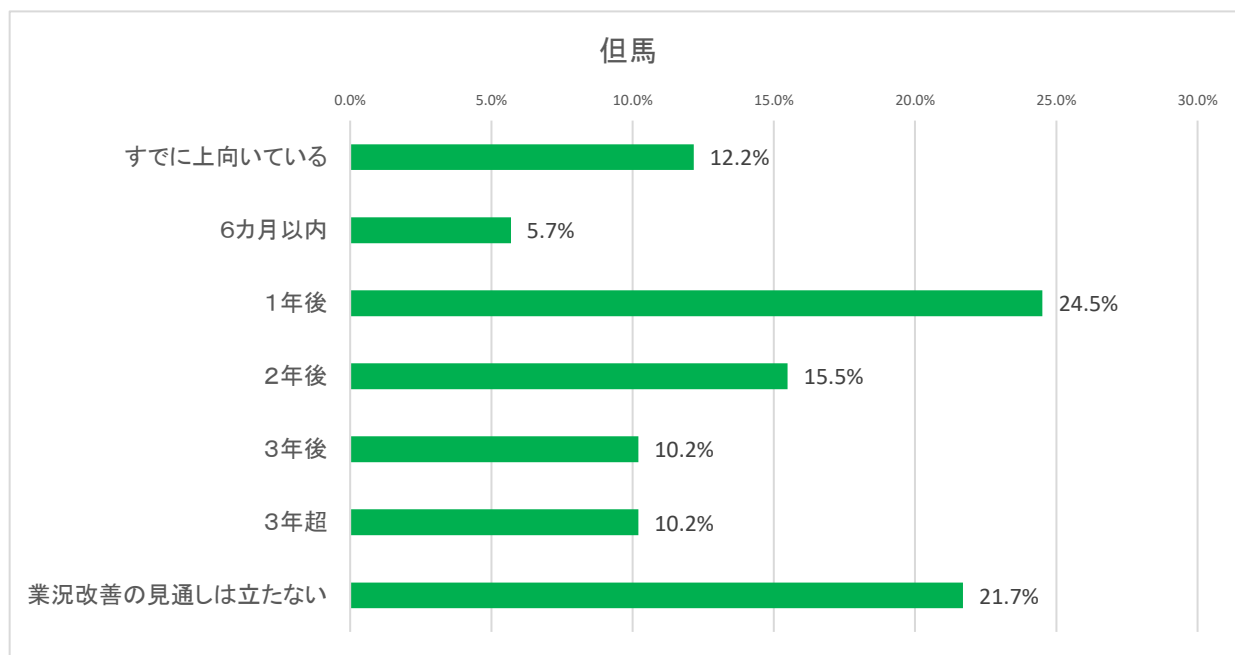
	当庫	全国
30%以上の増加	0.4%	1.1%
20~29%の増加	1.5%	1.7%
10~19%の増加	6.5%	9.2%
10%未満の増加	20.9%	20.2%
<b>増加</b>	<b>29.4%</b>	<b>32.3%</b>
変わらない	41.8%	40.5%
10%未満の減少	21.5%	17.7%
10~19%の減少	5.8%	6.8%
20~29%の減少	1.0%	1.8%
30%以上の減少	0.6%	1.0%
<b>減少</b>	<b>28.8%</b>	<b>27.2%</b>

前回

	当庫	全国
30%以上の増加	0.9%	1.6%
20~29%の増加	0.4%	2.6%
10~19%の増加	8.2%	9.9%
10%未満の増加	18.6%	20.2%
<b>増加</b>	<b>28.1%</b>	<b>34.3%</b>
変わらない	42.1%	39.1%
10%未満の減少	16.9%	16.3%
10~19%の減少	7.5%	6.8%
20~29%の減少	3.1%	2.1%
30%以上の減少	2.2%	1.5%
<b>減少</b>	<b>29.7%</b>	<b>26.7%</b>

#### 問4. 自社の業況が上向き転換時期について

自社の業況が上向き転換期については「1年後」が最も多く、全国と比較して「すでに上向いている」、「6カ月以内」が少なかった。また但馬・全国ともに「業況改善の見通しは立たない」も一定数存在した。



### 問5. 2023年の事業環境における経営リスクについて

2023年の経営リスクについては、「原材料・仕入価格のさらなる高騰」が但馬で77.9%、全国で79.3%と最も多かった。但馬では全国と比較し、「ロシア・ウクライナを含む海外情勢の圧迫化」、「コロナ融資の返済」が低い結果となった。

